

平成23年度 学校自己評価一覧シート

教育目標

- ① 発展性のある学力と高い知性を身に付ける
- ② 正しい判断力と豊かな情操を身に付ける
- ③ 強い体力と逞しい気力を身に付ける

本年度の重点目標

- ① 品位ある西高生
・時間厳守 ・挨拶励行 ・人権意識の発揚 ・環境美化
- ② 智をみがく西高生
・高い志と強い意志・意欲の涵養 ・確かな学力の育成 ・授業・補習等への積極的な取組
- ③ 逞しい西高生
・文武両道 ・学校行事への積極的な参加と取組 ・疾病・傷害の未然防止 ・教育相談の有効活用

※達成度は4段階で評価する。
4：大変よくできた。
3：まあまあできた。
2：あまりできなかった。
1：全くできなかった。

愛知県立一宮西高等学校
平成24年2月

項目	本年度の重点目標	具体的方策(名詞形で)	中間評価	年度末評価	達成度	次年度への課題及び行動目標
学校行事 (総務部) (生徒指導部)	式典や集会を通して品位・品格を高める	・式典に相応しい身だしなみの定着	生徒の97.1%、職員の92.2%が肯定的評価をしている。「指導」は意識されているが、指導されてはじめて身だしなみを整えたり、少ししか直さない生徒が見受けられる。式典における「ふさわしさ」が理解されていない。	品位のない身だしなみで式に臨む生徒は少ないが、教員に指導されるまで身だしなみを整えられない生徒も存在する。	3	式典だけではなく、日常的な身だしなみ指導が必要である。
		・校歌斉唱を通した西高生としての自覚の向上	職員の82.4%が肯定的評価であるのに対して生徒の38.5%しか肯定的評価をしていない。6割以上の生徒が職員の「指導」を意識していない。	教員の指導を意識している生徒が少なく、校歌の音量についても改善されなかった。	2	式典前の啓発プリントだけではなく、集会などを利用した意識の向上に努めたい。
	P T Aとの連携の推進	・情報交換の充実	中間評価は実施せず	保護者・職員ともに高い評価であるが、P T A活動に関わることが少ない職員の認識は高くはない。	3	保護者にはP T A広報紙(くぬぎ林)などで情報を発信し、職員には会議などで報告して、関心を高めたい。
学習指導 (教務部) (進路指導部) (各教科会) (各学年会)	学習意欲の喚起	・3年間を見通した教科シラバスの積極的活用	中間評価は実施せず。	4月中旬に配布・説明できた。学校評価アンケートによれば、4割近くの教員・生徒が積極的な評価をしている。これは、教科により進捗表や小テストの予定表を兼ねたものであったり、考査から考査までの短期的なシラバスを補強したりとさまざまな工夫がみられるようになったからである。	2	今年度内にシラバスの改訂を行い、次年度の最初の授業で配布・説明ができるようにする。また、更なる工夫を行い、生徒のみならず、教員も参照せざるを得ないものにしていきたい。
		・分かりやすい授業の研究	中間評価は実施せず。	5月末から6月始めにかけて10日間の授業公開を実施した。教科会においても例年に比べ活発な研究協議が行われ、観る側と観られる側が相互に刺激し合う緊張感が新鮮であったと概ね肯定的な評価であった。また、1学期末に行った生徒による授業アンケートでは、生徒の的確な評価により自己の授業を振り返るきっかけになった。また、教科によっては項目ごとの割合を数値化し、次年度以降の比較が可能となった。	3	授業公開では他の教科の授業も参観して、生徒がどのような授業を受けているのかを把握し、今後の学習指導のみならず生徒指導にも役立てていきたい。また、生徒の授業アンケートでは、項目毎の割合の集計をして積極的に活用したい。
		・発展性のある学力の育成	中間評価は実施せず。	昨年度より掲げた目標である。昨年度が生徒の受身的な学習をどのようにして積極的な学習に高めていくか模索の一年であったのに対し、今年度はそれを数字でも実感できるような学年と連携しながら授業改善、教材研究、教材の精選、課題の工夫、教科による研究協議等行う努力が見られた。	3	成果がなかなか数字にあらわれにくい内容ではあるが、多くの教員が様々な場面で実感できるよう、生徒により一層働きかけていきたい。
生徒指導 (生徒指導部)	安心安全な学校生活につながる積極的な生徒指導	・生徒の自己防衛意識向上に向けた積極的な啓発活動の展開	生徒全体においては、「大変そう思う」「まあそう思う」が94.5%に達しており、概ね肯定的な意識を持っている。教員においても、概ね同様な意識を持っている。	市内の不審者情報を即座に流したり、1学期中の不審者被害防止講演会や、2学期中の薬物乱用防止講演会など、生徒の注目を引く指導が功を奏した結果と言える。	3	生徒増に伴う生徒意識の変化を確実につかみ、生徒の心に訴える指導を心掛けていきたい。
		・交通安全指導の充実	中間評価は行っていないが、1学期末現在交通事故の合計が10件に上っている。2学期以降危機意識を持って指導をしていく必要がある。	2学期末現在の届出があった交通事故数は13件と、目標を超えてしまった。予防のための対策を第一義に考えていきたい。	2	ここ数年作成していなかった安全マップなど、生徒の目につく資料作成をしていきたい。
		・規範意識と心豊かな人間性の涵養	中間評価は実施せず	生徒の遅刻数では5年前に比べて激減しているが、身だしなみの面では、生徒と保護者の意識のギャップが大きく目立った。この解消に全力を尽くしていきたい。	3	明確な基準の確認と指導の徹底を図っていきたい。
進路指導 (進路指導部) (各学年会)	進路希望の実現	・進路情報の整理、検討と、ニーズに応えた進路情報の提供	各学年とも8割以上の肯定的評価である。しかし「大変そう思う」の割合が少なめ(生徒評価で3割)であることは今後の検討課題である。	8割以上の肯定的評価である。低学年の“ニーズ”がまだ十分に把握できていない感がある。	3	新教育課程のスタートとともに、大学入試センター試験でも大きな変更が予想されるため、素早い情報収集や提供に努めていく。
		・補習等の課外学習指導の充実	例年は学年が上がるにつれて肯定的評価の割合が増加する傾向であったが、今年は1～3年とも95%を超える肯定的評価であった。先生方の熱心な指導と、それに応える生徒の姿勢が合致していると言える。	すべての学年で高い評価である。教科や学年を中心に充実した学習指導ができた。	4	時間的には精一杯の状況である。内容の精選や授業との関連づけ等、限られた時間を有効に活用する必要がある。
安全指導 (保健部) (各学年会)	救急救命への取り組みと校内美化の推進	・心肺蘇生法、A E D操作技術の習得	講習会に参加した生徒56名中、44名(78.6%)の生徒が十分に技術を習得できたと回答。教職員参加者29名(アンケート回答27名)内、14名(51.9%)がスムーズに実施できたと回答している。生徒、職員ともに心肺蘇生法の手順を忘れないように毎年確認することの大切さを自由記述欄に記載していた。	生徒、教員とも講習会の参加者からは講習の必要性を感じるという感想があった。生徒については、中学校で講習を受けた者もいたが、初めての者も多かった。緊急時にスムーズな手順で心肺蘇生が行えるよう繰り返しの講習が大切である。	3	より多くの人がいっ、どこでも緊急時に心肺蘇生が行えるように、近年は手順が簡単になってきているので、毎年講習会を開いて、より多くの生徒、職員が体験できるようにしたい。
		・生活環境と清掃に対する生徒の意識高揚	音楽を聞いて素早く清掃に取り組めたかの質問に約7割の生徒が「大変できた」「まあできた」と回答している。しかし3割の生徒が取り組めていない。	清掃時間に音楽を流すことで清掃への取り組みも定着してきたが、まだ取り組みの甘い生徒がいる。特に今年度は十分に清掃を行ったと回答した中では1年生が1番少なかったため、しっかり指導したい。	3	学校環境を整備することは学習環境を整備することにも繋がる。よりきれいな環境で学校生活を送る大切さを伝えつつ、全員清掃を徹底していきたい。
部活動 生徒会行事 (各学年会)	部活動成果の向上と学校行事の充実・発展	・日々の部活動の練習の充実	中間評価実施せず	アンケートの結果によると9割以上の生徒が前向きに部活動に取り組んでいる。今年度は総体尾張男子が総合優勝となった。	4	引き続き部活動への参加を促すと共に、「文武両道」を目指す充実した部活動を意識させたい。
		・委員会活動の活性化と生徒の主体的な参加	中間評価実施せず	委員会と生徒会執行部が協力して生徒会活動が進行するように心掛けた。アンケート結果によると約8割の生徒が前向きに生徒会行事に取り組んでいる。	3	より多くの生徒が委員会活動や生徒会活動を通じて学校行事に取り組めるように指導をしていきたい。
読書指導 (図書部) (各教科会)	積極的な図書館利用の推進	・生徒の読書促進	今年度4月から6月までの貸出冊数は811冊であった。一昨年の891冊、昨年の886冊からさらに減少した。来館者数は伸びているが、本の貸し出しには結びついていない。	「図書館だより」「library news」とともに、「毎回読む」「ほとんど毎回読む」生徒数は、ほぼ昨年並みであった。新刊案内を見て本を借りに来る生徒もいるが、12月までの貸出冊数は一昨年1798冊、昨年1708冊から今年1606冊とやや減少した。	2	図書の選定・配架・広報等をさらに工夫し、「暇がない」「興味がない」生徒の興味を引くようにしていきたい。
		・利用しやすい図書館への工夫	中間評価実施せず	総合学習や保健の授業での利用があった。必要とされる資料の提供もある程度できた。	3	古い図書資料の差し替えなど、資料の整備、充実を図り、より利用しやすい図書館となるよう工夫していきたい。
		・図書委員による行事活動の充実	今年度はじめて図書委員となった生徒ばかりではあったが、短い時間の中で、テーマを設定し、資料を持ち寄り、工夫した展示ができた。	準備期間は短かったが、秋の企画展は、初夏よりも一層工夫した展示ができた。期間中の来館者数も昨年を上回り、そのほとんどは、高く評価してくれた。	3	少しでも多くの生徒が図書館に足を運んでくれるよう、行事の内容の工夫、広報の充実をはかりたい。